

書くための知恵満載！

贈るための厳選されたことばと品格ある揮毫例

北川博邦／高橋蒼石／高橋蒼玄／渡部半溟 共著

協力  
石飛博光  
岡田崇花  
川村玄舟  
松井茂陽

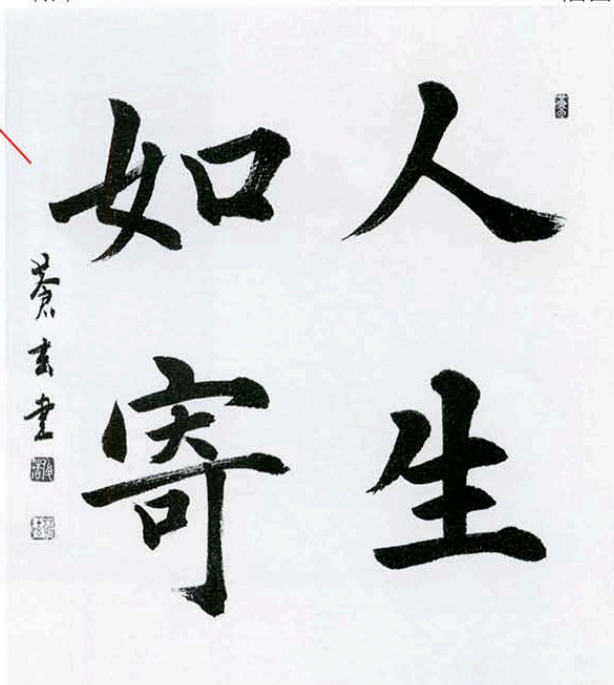
# 書作大鑑

## 色紙揮毫の巻

字典舎

私達の日々の生活の中で、「色紙」を目にする機会には意外に多いものです。例えば会社の応接室や病院の待合室、また飲食店などに、設立、開店記念の色紙が壁に飾られている事もあれば、個人の座右の銘、諸先輩からの箴言や詩文等が書かれた色紙もあります。漢字文化の中で暮らす私達にとっては「色紙を書く」という事は、決して特別なことではないのです。職業柄さまざまな場面、立場で色紙を依頼された経験をおもちの方も多いことでしょう。或いはただ見るだけでなく、自らも書いてみたいと思う方も多いのではないのでしょうか。また、色紙を書くとき、筆を持つことにさほど抵抗はなくとも、むしろ、その場面、状況に応じての言葉選びに苦労する場合もあるでしょう。

本書では、いろいろな場面、立場での色紙の書き方、言葉の選び方などを、丁寧に且つ解りやすく説明してあります。用語は、鑿戒、修養、吉慶など八種類の内容に分類し、楷書、行書、草書を中心に隷書、篆書の五書体で、約六〇〇例を掲載して揮毫の便を図りました。また、季節ごとの言葉、書きたい一文字が入っている言葉選びなど、索引も充実しております。是非本書を、「自分らしい色紙の揮毫」「書作の手引き」としてお役立ていただければ幸いです。

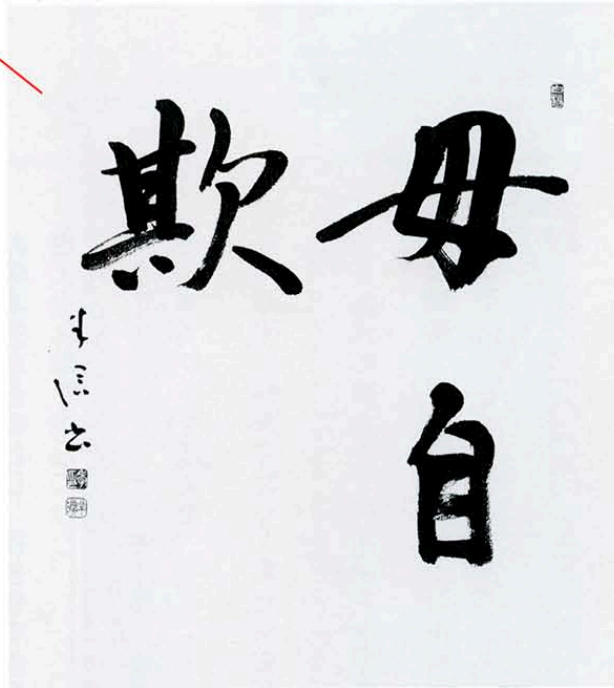


書作一五五例 一頁に四点そのまま色紙作品

書体

行書

〈修養〉



【人生如寄】

〔人生は寄するが如し〕

この世は仮住まいのようなもの。

〔魏 文帝・善哉行に「人生如寄、多憂何爲」という〕

【母自欺】

〔自ら欺く母し〕

自分をいつわることをしてない。

〔大學に「所謂誠其意者、母自欺也」という〕

原文・書下し文・現代語訳・出典付

【日新】

〔日に新たなり〕

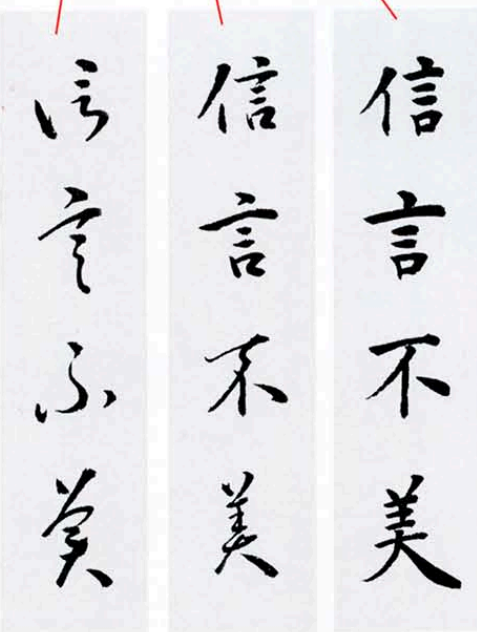


日に日に新しくなる。日ごとに進歩向上する。

〔易経・繫辭伝上に「日新謂之盛徳」という。〕

【信言不美】

〔信言は美ならず〕



信のある言葉は（飾り気のないので）美しくなる

〔老子第八十一章に「信言不美、美言不信」という〕

〈鑒戒・修養〉

言葉のジャンル

草書

行書

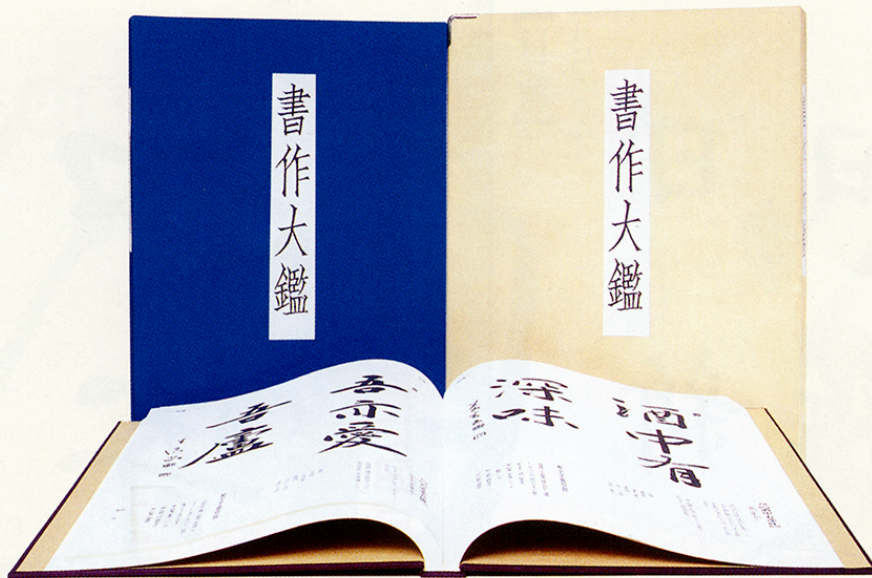
楷書

〈雑〉

103の類語字例

〔楷書・行書・草書の三書体で書き分けられる〕

応用実作309例



装丁  
B4判  
本文248頁  
上製箱入

## 著者紹介

北川 博邦 (くきたがわ ひろくに)  
文部省初等中等教育局教科書調査官 (国語科書写・芸術科書道担当)  
を経て、國學院大學日本文学科教授

高橋 蒼石 (たかはし そうせき)  
比田井南谷より「大森書学院」の名称を賜る。  
書宗院評議理事／書宗院報編集長／字典舎取締役編集部長

高橋 蒼玄 (たかはし そうげん)  
堀愛泉に師事。  
全日本書芸文化院運営総務／現日会同人審査員／純正書法連盟総務長／  
群象書人団相談役／朴心会主宰

渡部 半溟 (わたなべ はんめい)  
桑原翠邦・石田栖湖・比田井南谷に師事。  
書宗院評議理事・総務部長／全日本書芸文化院運営総務／日本書人連盟  
代表／白沙会代表／半溟書院代表

## 本書の特徴

- ◎約六〇〇の贈る言葉を精選、従来一般的に使われてきた言葉は出来るだけ省くようにした。
- ◎一二〇の作品はそのまま色紙手本となるように、ほぼ原寸大で収録した。
- ◎原文に書き下し文・現代語訳を付し、選んだ言葉の出典をできるだけ明らかにし、わかりやすくした。
- ◎字数は二字から十四字までとし、鑿戒(自己へのいましめ)・修養・吉慶等八種のジャンルに分類した。
- ◎書体は、楷書・行書・草書・隷書・篆書の標準的なものとし、書きやすさを尊重し、楷・行・草を中心にした。
- ◎揮毫にあたってはその使用筆、使用墨、筆法のポイントを添えた。
- ◎落款印例と解説を付し、また干支名揮毫例(今年から十年分)を楷・行・草の手本を付け創作に当たっての至便さを考慮した。
- ◎基礎知識、字数索引・ジャンル別索引・用語索引付。

「書作大鑑 色紙揮毫の巻」を  冊 申し込みます。

ご住所 (〒 - )

お名前 (フリガナ)

電話 ( )

取扱店名

字典舎